

「東アジアのコリアン・ネットワーク——その動向と実践」

日時：2010年12月26日(日)～27日(月)

場所：国立民族学博物館 第6セミナー室

定員：30名 使用言語：韓国語(通訳なし)

海外コリアンって？

韓国・朝鮮に出自をもつ人びとは、世界各地に拡散して暮らしています。その実数は、韓国政府が把握しているだけでも、およそ608万人(2003年8月、韓国政府発表)。主な移民先は、米国(36%)、中国(35%)、日本(11%)、旧ソ連(9%)です。ただ、これに北朝鮮系の人びとや、各国に帰化した人びとを含めると、この数は格段に増えます。

20世紀の100年間で朝鮮半島からは人口の約1割が海外に流出し、21世紀のあいだにはさらに3倍の人口が海外に流出するといわれています。



(左) 米国 ニューヨーク市マンハッタンの「コリア・ウェイ」

(中) 中国 吉林省長春市に新しく誕生した「長春韓国商業街」

(下) 日本 大阪府中央区島之内にある韓国食品店

開催趣旨

21世紀をむかえ、世界の各民族は多くの問題をかかえつつ、互いに交差しています。なかでも韓国・朝鮮から拡散したコリアンは、驚くべき協働精神でホスト社会に適応しています。しかし、彼／彼女らはホスト社会に包摂されるかのごとく見えながらも、完全には融合されないまま、時として排除の対象となります。その意味で、独特な存在だといえることができます。こうした海外コリアンは、東アジアの各地域を中心に、世界全域に居住しています。

今回の国際シンポジウムでは、韓国をはじめ各国における海外コリアン研究の動向と、日本、中国、サハリンおよびロシア沿海州、ベトナム、オーストラリアにおける海外コリアンの暮らしを紐解き、海外コリアンがどのようなネットワークをくりひろげて社会生活を行っているのかを、研究者と実務者の両方の視点から明らかにしていきます。

12月26日(日) 国立民族学博物館 第6セミナー室		
10:00～		受付
10:30～10:40	開会の挨拶	須藤健一 (民博・館長)
10:40～11:30	メンバー紹介と趣旨説明	朝倉敏夫 (民博・教授)
韓国セッション		司会: 太田心平 (民博・助教)
13:00～13:45	研究動向報告(家政学)	李 順炯 (ソウル大児童家庭学科・教授)
13:45～14:30	研究動向報告(人類学)	高 正子 (神戸大・非常勤講師)
中国セッション		司会: 韓 景旭 (西南学院大・教授)
14:45～15.30	研究動向報告	朴 承權 (中央民族大・准教授)
15:30～16:15	活動実践報告	崔 鮮花 (吉林大国際交流課・職員)
日本セッション		司会: 岡田浩樹 (神戸大大学院・教授)
16:30～17:15	研究動向報告	島村恭則 (関西学院大・教授)
17:15～18:00	活動実践報告	金 光敏 (NGOコリアセンター)
18:30～		懇親会
12月27日(月) 国立民族学博物館 第6セミナー室		
サハリン・沿海州セッション		司会: 李 愛俐娥 (東京大・特任教授)
10:00～10:45	活動実践報告	全 光根 (アルチョム市国際部・職員)
10:45～11:15	研究動向報告	ナム・ヘギョン (サハリン国立大・准教授)
11:15～12:00	政策分析報告	イム・エルビラ (サハリン国立大・准教授)
ベトナム・豪州セッション		司会: 河上幸子 (京都外国語大・講師) 林 史樹 (神田外語大・准教授)
13:00～13:45	活動実践報告	Lee Hee-Seung (在ホーチミン貿易商)
13:45～14:30	研究動向報告, 活動実践報告	Cho Yang-hoon (シドニー韓人会)
総合討論		司会: 朝倉敏夫
15:00～17:00		

※ この国際シンポジウムは、文部科学省科学研究費補助金による研究「東アジアのコリアン・ネットワークの人類学的研究」(研究代表者: 朝倉敏夫)による活動の一部です。

※ この国際シンポジウムは韓国語で行い、通訳を行いません。

※ 内容について御関心をおもちの方は、以下にお問い合わせくだされば、発表抄録をさしあげます。

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館 朝倉敏夫研究室

電話: 06-6876-2151(代表) E-mail: asa@idc.minpaku.ac.jp